踊り子経験が YOSAKOI ソーラン演舞の「曲」と「振り」の関係評価に与える影響

後藤靖宏

(北星学園大学文学部 心理・応用コミュニケーション学科)

キーワード: YOSAKOI ソーラン演舞・踊り子経験・「曲」と「振り」の関係

An Influence of Experience on Estimation of Relation between “Music” and “Dance” of YOSAKOI-SORAN Performance

Yasuhiro GOTO

(Psychology and Applied Communication, Faculty of Humanities, Hokusei Gakuen University)

Key words: YOSAKOI-SORAN Performance, Dancing Experience, Relation between “Music” and “Dance”

目 的

YOSAKOI ソーラン祭りとは北海道札幌市を中心として毎年 6 月に開催されるイベントである。鳴子を持って踊ることと、曲中に「ソーラン節」のフレーズを入れること以外は踊りも衣装もすべて各チームの自由であり、約 5 分の演舞作品は様々なタイプのものがある。本研究では、踊り子の経験があるかないかによって、演舞作品の評価に影響を与えるかどうかを、2 つの実験により検討した。実験 1 では、曲と振りの一致度合いによる評価の違いを検討した。実験 2 では、曲想の変化による振りの印象の変化を検討した。

実 験 1

踊り子経験の有無が YOSAKOI ソーラン演舞作品の曲と振りの関係評価に影響を受けるのかを検討した。曲と振りの一致度合いを 4 種類設定し、その判別力及び評価を比較した。

被験者 大学生 65 名(男性 15 名, 女性 50 名, 平均年齢 20.5 歳)。うち 33 名は経験者(大学の YOSAKOI ソーランチームに 2 年以上所属し, 同チームの踊り子として YOSAKOI ソーラン祭りに参加した経験のある者), 32 名は非経験者であった。

材料 曲と振りの組み合わせが元の作品と同じである「完全一致条件」、タイミングのみずらした「テンポ不一致条件」、曲と振りの表現する“意味”が異なっている「意味不一致条件」、およびタイミングと意味のいずれもずれている「不一致条件」の 4 種類の映像を用いた。映像の評価には予備調査で選出した評価語 38 個から成る質問紙を用いた。

手続き 4 種類の映像をランダムに被験者に提示し、「激しい」、「力強い」などの評価語で印象評定をさせた。

結果と考察 作品に対する違和感及び技術的な側面において、経験者と非経験者の間に評価の差が見られた(図 1)。また YOSAKOI ソーラン演舞作品の評価には「活発性」、「パワー性」、「意欲性」および「感動性」の 4 つであることがわかった。さらに、曲と振りのテンポの一致は経験を問わず重要であることも明らかになった。

図1. 曲と振りの一致度合い評価における経験別平均値

実 験 2

YOSAKOI ソーラン演舞作品の「曲想」は、曲と同時に再生される振りの印象に影響を与えるのかどうかを、経験の有無で比較検討した。

被験者 北星学園大学の生徒 55 名(男性 11 名, 女性 44 名, 平均年齢 20.38 歳)。経験者が 28 名, 非経験者が 27 名であった。経験者および非経験者の条件は実験 1 と同様であった。

材料 「華やか」、「壮大」、「民族」および「ソーラン節」の 4 種類の曲想に振りを合わせた映像と質問紙を用いた。

手続き 種類の曲想の映像に、曲がなく振りのみの統制群を加えた 5 種類の映像をランダムに提示し、印象評定をさせた。

結果と考察 曲想は振りの印象に影響を与えることが明らかになった。また、曲想によって経験が影響するものとしな

いものがあること、特に非経験者は「YOSAKOI っぽい」と認知できる曲に対し強く反応し、一致度の高さを認知することが示された。経験の有無に差がみられた例を図 2 に示す。

図2. 一致度合い評価の経験別平均値

総 合 的 考 察

2 つの実験の結果、YOSAKOI ソーラン演舞作品に対する評価の視点として、舞踊一般に共通するものと YOSAKOI ソーランに特有のものに分かれることがわかった。また、踊り子経験がある場合とない場合とでは、作品に対する評価の視点が異なるということが明らかになった。しかし、その一方で、曲と振りがよく調和していると感じられる作品は、経験を問わず高く評価されていることが示されていた。これらのことから、YOSAKOI ソーラン演舞作品が多く観客から高く評価されるためには、観客に、曲と振りがよく調和していると認知されることが重要であることが示された。

今後は、YOSAKOI ソーラン演舞作品に使用される振りと曲想の関係を調べると、より多くの人に評価される作品になるのかを検討することが出来るであろう。また、衣装や人数など、YOSAKOI ソーラン演舞作品を構成する様々な要素についてもあわせて調べる必要がある。

本研究は宮永麻衣(北星学園大学 2010 年卒業)との共同による。